

立田先生のご退職に寄せて

梶山 健

はじめに、『教職教育センタージャーナル 立田先生退職記念号』の執筆に携わる機会をいただくことができたため、立田先生との思い出を大学在学中と大学卒業後に分けて記す。

第一に、大学在学中のことである。私が立田先生と出会ったのは、2回生の頃である。かねてより今西先生から素敵な先生がいらっしゃるよ。とお聞きしていたので、とても楽しみであったことを今でも記憶している。立田先生には教職教育分野の『特別活動の研究』の講義をご担当いただいた。中学校・高等学校におけるいわゆる「総合」の時間やホームルーム活動における学習活動や探究活動を行う上で大切なことを多く学んだ。特に、印象に残っているのは立田先生ご自身が研究に携わってこられた3つのキー・コンピテンシーの紹介を受けながら、多様な集団の中で他者との人間関係を形成できるような学習活動・探究活動が大切であることを学んだ。今日、教育現場において「総合的な探究の時間」の内容を検討する際にも、立田先生の講義で学んだことを忘れずに計画・進行することを心がけており、財産となっている。このほかにも、図書を通じた学びの習得や、生涯学習の大切さを教わってきた。講義を受講してから立田先生の研究室へ質問しに訪ねたり、指導案の添削をしていただいたり、時にはご飯や映画鑑賞にお連れいただいたりなど、数えきれないほどお世話になった。3回生になり、法学部に在籍していた私は、キャンパス移転の兼ね合いによりポートアイランドで過ごすこととなった。立田先生が所属される有瀬キャンパスに行く機会が減ってしまい、なかなかお会いできない日が多くあったが、学内でお会いした際にはいつも気にかけてくださり大変心強かったことも鮮明に覚えている。4回生になり、教育実習で母校にて3週間実習をしていた際、非ゼミ生であったことから、立田先生が研究授業に来て下さった。中学3年生の社会（公民分野）の授業を担当し、母校の先生方とともに立田先生に授業を見ていただいたが、研究授業以前の授業の時よりも計画通りに進まず冷や汗をかきながら授業を行っていたことも印象に残っている。研究授業後の討議の際には、立田先生の優しく心に残る言葉で講評をくださったことや、先生の研究室で教育実習の話題になると、「あんなに緊張してる梶山さんの姿、初めて見たわ。」と笑って言われたことも思い出深い情景の一つである。

第二に、大学卒業後のことである。大学を無事に卒業すると同時に教員免許を取得することができ、前段にもあるように高校の教諭として教育現場に従事することができている。ある日、自らも受講した『教育実習事前指導』にパネラーとして登壇させていただける機会をいただいた。はじめの数期間は、教育実習の体験談をお話しするパネラーとして後輩となる学生に向けて発信をさせていただくことがメインであったが、教科に関する心得についても講義もさせていただける機会をいただけたことで、さらに教育現場で実践してい

ることを共有してみたり、大学生からの声を聞いてみるのができたりと、とても有意義な機会を与えてくださったことに感謝している。教員生活が始まって通算10年も経過していないが、そんな中でもさまざまな体験の機会、発見の機会、学びの機会を与えてくださった立田先生の存在は、この場を書ききれないほど偉大な存在である。私自身、立田先生が与えてくださった教えの実践ができていない点が多くあるが、教育に携わる者の一人としてこれからも頑張っていきたいと思う。

結びにあたって、教育に関する専門的な知識を丁寧に教えていただいたことや、多くの体験の機会を与えてくださったこと、かつ手厚くサポートしてくださった立田先生に改めてこの場を借りて御礼申し上げたい。本当にありがとうございました。退官後も関西にぜひお越しくださいね。